

J2仙台移籍後 初ホーム

岩淵万感 憧れのユアスタ

サッカーJ2仙台のMF 岩淵弘人(28)が28日、J1岡山市出身のJ2岩手県一関から移籍し初めてユアテックスタジアム仙台(仙台市)のピッチに立った。「ベガサポ」として少年時代から夢見た場所で57分間、必死に走った。「あの頃の記憶がよみがえった。きょうを絶対に忘れない」。家族や友人が詰めかけた観客席を万感の思いで見上げた。

(3・11面に関連記事)

「雑草魂」で逆境をはねのけ、ここまで来た。岩手・遠野高から仙台大に進み、7軍まであるサッカー部の4軍でスタート。力の差にプロへの道は現実味がなく、1年時は遊びやアルバイトで気を紛らわせた。それでも練習は手を抜かず、控え選手が出場するリーグで得点を重ね、2年になる頃には1軍と呼ばれた。「プライドがない分、何でもできた」と攻守にひたすら走った。今では代名詞のハードワークでレギュラーに定着した。

4年時にプロからの誘いはなく、就職を考えた。鉄道会社の試験を受けに仙台市内の会場に近づいた時だった。「やっぱり、違う」。無理やり抑え込んでいたサッカーへの思いがあふれ、きびすを返した。

次の夢は「J1復帰」

卒業後は、翌年に日本フットボールリーグ(JFL)昇格が決まっていたいわきFC(現J2)に入団。3年目にはJ3で10得点5アシストと芽が出るも、右膝前十字靭帯を断裂する大けがに泣いた。

一昨年は当時J2の岡山に移籍し、チーム最多13点を挙げJ1昇格に貢献。昨年は控えに回ったが、国内最高峰リーグで3得点し手応えも得た。

昨年末、小学校低学年から思い焦がれてきた仙台に誘われた。移籍すればJ2に逃げたと思われるだろうか。人生で最も悩んだ。「再びオファーがあるから分らない。後悔したくない」。本心に従った。

今、東北にJ1のクラブはない。「自分のように東北の子どもが憧れを抱けるよう、仙台をJ1に戻す。ここで長く戦う」。思い定めた残りのサッカー人生の目標へ、なわも走る。(鈴木悠太)



ゴール前で懸命に競り合う岩淵(中央)(鹿野智裕撮影)



ユニホーム姿でユアスタで観戦する小学生時代の岩淵(中央、ベガルタ仙台提供)